地域研究　№21
2018年４月　67-75頁

The Institute of Regional Studies, Okinawa University
Regional Studies №21　April 2018 pp.67-75

# 沖縄の集落における子育ての共同組織に関する研究（その４）
## ―旧名護町の字幼児園の合同運動会史―

嘉　納　英　明*

# A nursery school study in the community of Okinawa（Ⅳ）
## －Nursery school sports festival in Nago－

KANO Hideaki

要　旨

本報告は、名護市字宮里幼児園の保育士であった奥原峯子所蔵の字幼児園関連資料の整理と元幼児園関係者への聞き取りによって、字幼児園の地域共同実践としての合同運動会の一端を明らかにしたものである。旧名護町内の字幼児園の保育士は、個々の幼児園相互の情報交換を積み重ねながら、保育実践の自己検証としての合同運動会を企画実施してきた。この名護幼児園会の運動会は、1971年（昭46）の第１回から2011年（平23）の第41回までの41年間の実践であった。日常的には、個々の集落の子どもの保育保障を担っていた幼児園は、幼児園全体の合同運動会を実践することで、「名護の幼児園はひとつ」であり、相互に協力し合って就学前の子ども支援に関わっていたという実感を持っていたといえる。

キーワード：幼児園　保育士　集落　合同運動会

## １．字幼児園の成立と地域共同実践としての合同運動会

戦後、沖縄の集落社会では、字公民館附設の幼稚園（以下「公民館幼稚園」と略）が広く設立され、小学校入学前の幼少の子どもの保育・教育活動の拠点として機能していた。公民館幼稚園では、集落の子どもの就学前教育について地域住民の手による自治的な保育・教育活動が営まれ、子どもの成長と発達の保障を担っていたのである。換言すれば、保育園、幼稚園の未整備の状況の中で、これに代わる施設として公民館幼稚園が存在し、地域の子育ての施設としての役割を果たしていた。この公民館幼稚園は、沖縄の日本復帰を迎える頃には、

* 公立大学法人　名桜大学国際学群教授

公私立園の急速な整備もあって、次々と姿を消した。公民館幼稚園の中には、複数の園が統合され地域の公立幼稚園として再スタートしたり、公民館幼稚園の保母が資格取得を条件に公立幼稚園の教師として採用されたりした。地域において相互扶助の形態で存在していた公民館幼稚園（就学前教育）に代わって、公立の幼稚園が公教育の装いをもって沖縄の５歳児の幼稚園教育を担い始めたのである。一方、公立幼稚園に入園できない５歳児以下の子どもは、近郊の公私立園に入園したり、あるいは、地域によっては公民館幼稚園の後身として字幼児園が設立され、そこに入園したりした。字幼児園は、公民館幼稚園を前史にもち、対象年齢を引き下げて子どもを預かる場と再生し、地域の保育・教育要求のもとであらためて成立したのである。ここで名護の事例を紹介すれば、字仲尾次を校区に含む、真喜屋小学校に幼稚園が設置され（設置は1976年４月）、字仲尾次の公民館幼稚園がなくなるが、「総会で幼稚園にかわるべき幼児園の開設を決め、引き続き上地（上地富子－筆者注）さんに子供たちの世話を頼んだ」としている。地域の保育・教育ニーズに対して、集落が主体的に幼児園の設立を決めたのである[(1)]。

ところで、本報告の調査対象である名護市内の字幼児園は、1970年代末には、13園が活動していた。しかも、地域の保育・教育要求に応じながら、市内の字幼児園の保育士は、自身の資質向上を目的にした学習会を積み重ねたり、幼児園の環境整備のために行政に要望を出したりして、自覚ある主体的な保育士として活動していた。その中でも特に注目されるのは、名護の字幼児園の保育士、子ども、保護者が一堂に会した合同運動会や「にんぎょうげき[(2)]」の実践である。これらの実践は、旧名護町内[(3)]の幼児園から組織化された「名護幼児園会」による発案であり、それぞれの園行事を実践しながら、特に、広域の一大行事としての合同運動会を開催していた。これは、地域共同実践と呼べるものであり、しかも、名護の就学前教育を担っていた字幼児園の存在を市民へアピールする格好の行事であった。

本報告は、字宮里幼児園の保育士であった奥原峯子（昭和16年生）所蔵の関連資料の整理と、元幼児園関係者への聞き取りによって、字幼児園の地域共同実践としての合同運動会の一端を明らかにする。

## ２．合同運動会の開催と目的

記念すべき第１回名護幼児園会運動会は、沖縄の日本復帰前年の1971年（昭46）10月17日、名護小学校の運動場にて開催された。前年の1970年８月に町村合併があり、名護市が誕生していたが（図１．名護市の行政区域」参照）、旧名護町内の幼児園の合同行事であった。第１回に参加した幼児園は６園（大東、大中、大西、港、大南、宮里）である（「資料１．名護幼児園会運動会の参加園」「資料２．名護幼児園会運動会の参加園数」参照）。第２回の合同運動会のプログラム（1972年実施）には、保護者向けの合同運動会の目的が３つ記されている。それは、①今まで身につけた集団での行動を運動会に参加することによって協調性を養い行動を機敏にし、今後の集団生活を高める、②遊戯やフォークダンスを通してリズム感

を養うと共に友達といっしょに表現を楽しむ、③親子の楽しい一日をもつ、である。1975年（昭50）開催の第５回から北区の幼児園が参加し、翌年には、喜瀬、東江の幼児園も参加して全体で９園となっている。

図１．名護市の行政区域

名護幼児園運動会の最盛期は、1979年（昭54）の第９回と1980年（昭55）の第10回であり、13の幼児園（大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、喜瀬、東江、数久田、たんぽぽ、許田、城）が合同運動会に参加した。奥原峯子の記録によると、第９回の参加園児数は477名である。こうした幼児園の合同運動会への参加の増加は、名護市の幼少児（０～４歳）人口が1975年（昭50）にピーク（4,779人）を迎えていることが背景にある[(4)]。1981年（昭56）から1993年（平５）までは、参加園は９～11 で推移し、1994年（平６）からは、４園（大東、大南、宮里、東江）に激減している。

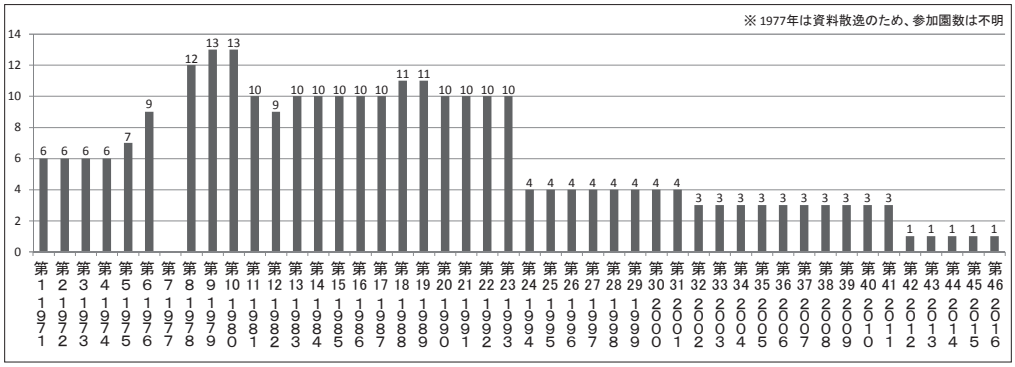
４園の合同運動会は、2001年（平13）まで継続され、2002年（平14）から2011年（平23）までは、３園（大南、宮里、東江）、2012年（平24）以降は、宮里幼児園単独の運動会となっている。なお、宮里幼児園は、2016年度末の閉園に伴い、2016年度の運動会が最後となった[(5)]。

以上のことから、名護幼児園会運動会は、1971年（昭46）の第１回から2011年（平23）の第41回までの41年間の実践であった。

資料１．名護幼児園会運動会の参加園

| 回 | 開催年 | 参　加　園 |
|---|---|---|
| 1 | 1971 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里 |
| 2 | 1972 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里 |
| 3 | 1973 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里 |
| 4 | 1974 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里 |
| 5 | 1975 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区 |
| 6 | 1976 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、喜瀬、東江 |
| 7 | 1977 | 不明 |
| 8 | 1978 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、喜瀬、東江、数久田、たんぽぽ、許田 |
| 9 | 1979 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、喜瀬、東江、数久田、たんぽぽ、許田、城 |
| 10 | 1980 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、喜瀬、東江、数久田、たんぽぽ、許田、城 |
| 11 | 1981 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、城 |
| 12 | 1982 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ |
| 13 | 1983 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、城 |
| 14 | 1984 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、城 |
| 15 | 1985 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、城 |
| 16 | 1986 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、城 |
| 17 | 1987 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、城 |
| 18 | 1988 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、城、ひまわり |
| 19 | 1989 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、城、ひまわり |
| 20 | 1990 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、ひまわり |
| 21 | 1991 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、ひまわり |
| 22 | 1992 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、ひまわり |
| 23 | 1993 | 大東、大中、大西、港、大南、宮里、北区、東江、たんぽぽ、ひまわり |
| 24 | 1994 | 宮里、大南、大東、東江 |
| 25 | 1995 | 宮里、大南、大東、東江 |
| 26 | 1996 | 宮里、大南、大東、東江 |
| 27 | 1997 | 宮里、大南、大東、東江 |
| 28 | 1998 | 宮里、大南、大東、東江 |
| 29 | 1999 | 宮里、大南、大東、東江 |
| 30 | 2000 | 宮里、大南、大東、東江 |
| 31 | 2001 | 宮里、大南、大東、東江 |
| 32 | 2002 | 宮里、大南、東江 |
| 33 | 2003 | 宮里、大南、東江 |
| 34 | 2004 | 宮里、大南、東江 |
| 35 | 2005 | 宮里、大南、東江 |
| 36 | 2006 | 宮里、大南、東江 |
| 37 | 2007 | 宮里、大南、東江 |
| 38 | 2008 | 宮里、大南、東江 |
| 39 | 2009 | 宮里、大南、東江 |
| 40 | 2010 | 宮里、大南、東江 |
| 41 | 2011 | 宮里、大南、東江 |

資料２．名護幼児園会運動会の参加園数




資料１と資料２は、奥原峯子提供資料をもとに嘉納が作成

ところで、幼児園数の増減はみられるものの、旧名護町内の幼児園が一堂に会して合同運動会を実施してきた意味はどこにあるのだろうか。また、幼児園会主催の合同運動会の開催目的は、いったい何であったのか。第１回の合同運動会（1971年）当時の名護幼児園会会長の具志堅徹（1939年生、元市議会議員）は、合同運動会開催と関わって次のように述懐した[(6)]。

当時の公民館の幼児園に関わるようになったのは、自分の娘が２～３歳位になって、公的に子どもを預けるところがなくてね。大東の公民館では、幼児園があったので、そこに預けることになった。それがきっかけでしたね。沖縄の復帰前の話だね。

幼児園会の会長は、私が最初だったね。その後も、会長を続けて、その後、後の人に譲ったね。私は、その時、町議をしていたんじゃないかな。子どもたちの遊具がないので、どうにかしてくれという相談でした。保母さんたちは、本当に一生懸命で、頑張っていましたね。でも、区長さんは、事故が起こったら責任を取らされるということで、区長にはなっても、園長にはなりたがらなかったですね。各字の幼児園の取り組みは様々だから、運動会とか、合同でやることでお互いの情報交換というのかな、自分たちの保育の自己検証的な意味もあったと思う。自分たちの保育がいい方向にいっているのかな、とかですね。また、これだけ頑張っているという行政へのアピールにもなったよ。合同運動会は、大きな目玉でしたね。市長や議員さんにもこういう活動をしているんだよと言えるし、その後の予算請求にもつながったと思う。運動会は、保母さんたちだけではなく保護者や地域の人たちの協力もありましたね。あの頃の保母さんたちは、真面目で、自分たちの村の子どもたちは自分たちで育てようという気持ちが強かったと思いますよ。保母さんたちの熱心な研究とその成果としての運動会だったと思います。

具志堅は、合同運動会のもつ意味としては、個々の幼児園（保母）相互の情報交換の場であり、保育実践の自己検証として位置づけ、広域の地域実践は、幼児園への予算請求という行政へのアピールにもなったとしている。日常的には、個々の集落の子どもの保育保障を担っ

ていた幼児園は、幼児園全体の合同運動会を実践することで、「名護の幼児園はひとつ」であり、相互に協力し合って就学前の子ども支援に関わっていたという実感を持っていたといえる。

## ３．合同運動会プログラムにみる実施状況

第１回名護市幼児園合同運動会は、1971年（昭46）10月17日（日）に開催された。当時のガリ版刷のプログラムの表紙には、雨天の場合、１週間後の10月24日（日）に順延と記され、幼児園全体の合同練習は、10月12日（火）と14日（木）の２回、設定されている。第１回の合同運動会参加園は、先述したように６園であり、各園の保育士がプログラムを担って運営している。プログラムの内容をみると、開会式から始まり、かけっこ、ゆうぎ、うばぐるま競争、障害物競走、玉入れなど、多彩である。保護者のおどりや区対抗リレーもあり、地域住民や保護者参加の運動会であることがわかる。

合同運動会については、「名護市広報・市民のひろば」の48号（1975年11月発行）、227号（1994年12月発行）で掲載がある。「沖縄タイムス」は、第17回大会（1987年11月３日掲載）、第24回大会（1994年11月13日掲載）、第27回大会（1997年11月４日掲載）、第31回大会（2001年11月７日掲載）、第34回大会（2004年11月９日掲載）があり、「琉球新報」は、第34回大会（2004年11月９日掲載）である。「名護市広報・市民のひろば」第48号の掲載が最も早く合同運動会開催を取り上げ、「名護市には、この七区（東区、宮里区、大西区、港区、大北区、大中区、大南区を示す－筆者注）のほかに久志や羽地、屋部地区にも幼児園があり、それぞれ区の特徴を生かした運営をしています。保育所でもなく、公立の幼稚園でもなく、その地域の人たちや保護者が独自の考え方で運営できるとあって、各区ともかなり力を入れ、市でも教材費の援助をしたり、バックアップしています」と紹介されている。この広報誌の記事から、各区に幼児園があり、区独自で運営されていることもわかる。

宮里幼児園生の行進

宮里幼児園のエイサー（奥原峯子、比嘉育子）

第32回合同運動会（2002年）のスナップ写真（奥原峯子提供）

奥原峯子が1974年（昭49）に宮里幼児園の保育士として着任した時には、既に、合同運動

会は３回の開催実績があった。奥原は、当時を回想して次のように述べている[7]。

私が幼児園に来たときには、合同運動会はありました。合同の運動会ですから、すぐには出来ませんよね。前もって実行委員会みたいなものがあって、そこで、プログラムを決めたり、役割分担などを決めたりしました。話し合いの場所は、年によって、各字の幼児園で持ち回りみたいにしていましたが、今の宮里の幼児園の園舎が出来てからは、ここで集まるようになりました。各字の幼児園の保育士さんが係を受け持って、お母さん方も分担を受け持って。手作りで飾りなども作りました。力仕事は、お父さん方にも協力してもらってという感じで。本番の運動会の前に、各園が集まって、合同の練習もしましたね。

沖縄の公立の幼稚園の運動会は、小学校と一緒でしょう。小学校の運動会のプログラムにひとつだけ、「かけっこ」が入っていて、終わったら、おしまいみたいな。でも幼児園の合同運動会は、「かけっこ」もあれば、「玉入れ」もあって、沢山の子どもの出番があって、盛り上がりましたよ。お父さんやお母さん方も、自分の子どもの出番が多いと喜ぶでしょう。

奥原は、名護幼児園会の実行委員会方式による合同運動会の開催であること、公立の幼稚園は小学校の運動会のプログラムのひとつに参加するが、幼児園会主催の合同運動会は様々なプログラムに子どもや保護者、地域の住民の参加による行事であることを述べている。手づくり感のある合同運動会の企画は、園舎の大きい宮里幼児園で話し合われた。

合同運動会の会場は、第６回までは名護小学校の運動場であり（第７回は不明）、第８～９回は大宮小学校の運動場、第10～38回は市総合グラウンド（第28回のみ屋内運動場）、第39回と第40回は大宮中学校、第41回は名護市ドームである。奥原は、名護小学校の運動場を借りての合同運動会後の出来事について次のように述懐した[8]。

ある年、名護小学校での運動会が終わって、どしゃぶりの雨が降ったもんだから、テントの片付けは翌日にしようということになったんですね。ところが、その日の夜に暴風が来て、テントが隣の名護中学校に飛ばされたりして、大変な状況。区長さんからの呼び掛けで、区長さんは園長さんでしょう。お父さん方も、全員、夜中に呼び出されて片付けをしたこともありました。また、ある年には、大宮小学校で運動会が終わって、保護者がきちんと片付けをして帰ったら、その日の夜も台風で、校庭の木の葉やゴミが散乱してしまって、また、呼び出し。大城恵美子さんと私と年配の人たち。若い人たちは、つかまらなくて。学校の運動場が散らかっていたんでは、体育の授業が出来なくて先生や子どもたちは困るでしょう。

名護市大南在住の宮城勝子（昭和18年生）は、1975年（昭和50）から大南の幼児園の保育士として働き始め、大南を含めて７つの幼児園による合同運動会を経験している。当時の合同運動会について次のように述懐している[9]。

大南に勤め始めた頃は、合同運動会に参加する幼児園もそれほど多くはありませんでした。感心したのは、お母さん方が運動会の準備や手伝いに一生懸命であるし、お父さん方には力仕事などを頑張ってもらいました。その頃のお母さん方は専業が多かった感じはします。だから、幼児園への協力もよくできたのでは、と思います。私たちは、子どもへの指導で大変なので、子どものトイレへの引率などはお母さん方の協力を得ましたね。とにかく、地域の協力も良かった。小学校の運動場を借りる時にも、校長先生は、気持ちよく貸してくださいました。

各園の保育士さんも頑張っていました。運動会の準備や打ち合わせは、大南の場合、宮里幼児園が近いのでそこで合流して準備をしました。その頃、７つの幼児園がありましたので、いくつかのブロックごとに集まって準備をして、それから本番を迎えました。全体練習は一回程でしたが、本番は、多くの保護者も来て大変盛り上がりましたね。小学校の運動会並みに多くの人が参加しました。

第５回合同運動会（1975年、於：名護小学校、宮城勝子提供）

宮城の証言は、当時の字幼児園の保育士を中心として合同運動会が企画され、その運営のためには保護者や学校の協力が得られたことが大きいことを意味している。また、近隣の字幼児園が連携して準備と企画を行い、合同運動会を実施してきた。当時、宮城は大南幼児園、奥原は宮里幼児園で働き、共に地域教育実践としての合同運動会に参加していたのである。

## ４．地域実践としての合同運動会の持つ意味

名護幼児園会の合同運動会は、沖縄の日本復帰前年の1971年（昭和46）から始まり、2011年（平成23）まで続いた。合同運動会の企画と実施は、字幼児園の保育士が主体的に担った。この地域実践は、個々の幼児園（保育士）の交流と保育実践の検証につらなるものであり、名護町（現在の名護市）の幼児教育の保障の一角を字幼児園が担い、その存在感を市民へア

ピールする場でもあった。また、同時に、旧名護町の字幼児園の一体感を育む機会となったものと考える。こうした合同運動会を契機とした保育士相互の交流は、その後の名護幼児園会主催の「にんぎょうげき」の実践や保育に関わる学習会の実施につながるが、これらの詳細な検討については、今後の課題である。復帰前の字幼児園、とりわけ、前身の公民館幼稚園は個々の集落で独自の活動が行われてきたが、本報告で述べたように、旧名護町内の字幼児園が相互につながることで就学前の地域の子どもを支援していたことは特筆されるものである。

## 注

（１）『仲尾次豊年踊120年祭記念誌』2012年４月、p128。同『記念誌』収録の新聞記事の上部には、「沖縄タイムス　昭和63年ごろ」と記載されているが、正確には、「沖縄タイムス」の1979年９月26日付けである。

（２）「にんぎょうげき」は、名護市幼児園会主催により実施された。奥原峯子所蔵の「第12回にんぎょうげき（平成３年12月13日）」の資料によると、10の幼児園（大中、たんぽぽ、宮里、港、大南、大北、ひまわり、大西、東江、大東）の合同開催である。第１回は、1980年（昭55）12月22日、港公民館にて開催されている。「にんぎょうげき」は、平成３年まで開催されたが、その後の開催については、不明である。

（３）現在の名護市は、1970年８月１日、名護町、羽地村、久志村、屋部村、屋我地村の５町村が合併したものである。

（４）名護市企画部企画調整課編『名護市の統計（平成13年版）』平成14年３月、14～15頁。

（５）宮里幼児園は2016年度（平28）末で閉園し、大南幼児園は2017年度（平29）末で閉園した。宮里幼児園の閉園の理由は、入園希望者が減少傾向にあったことに加えて、市教育委員会は、市内の公立幼稚園の入園対象を５歳児入園から４歳児入園まで拡大し、複数年教育・保育を導入したことによる（名護市教育委員会「名護市立幼稚園今後の在り方について（方針）」平成28年３月）。

（６）具志堅徹からの聞き取り（2017年４月10日、於：具志堅徹宅／名護市大東区）。

（７）奥原峯子からの聞き取り（2017年３月27日聞き取り、於：宮里公民館）。

（８）同上。

（９）宮城勝子からの聞き取り（2017年10月３日、於：宮城勝子の自宅／名護市大南）。

［本調査は、科学研究費補助金（課題番号：16K04560）による成果の一部である］